

前回会議（第 26 回）の振り返りと今回の検討テーマ

1. 新宿区スポーツ環境整備方針の方向性等

令和 7 年 3 月に「新宿区スポーツ環境整備方針」を改定し、誰もが生涯を通じて、様々な目的やレベル等に応じた多様なスポーツ活動に親しむ環境を整備するため、中・長期的な展望に立って、新たに区のスポーツ環境整備の基本的な方向性を決めました。

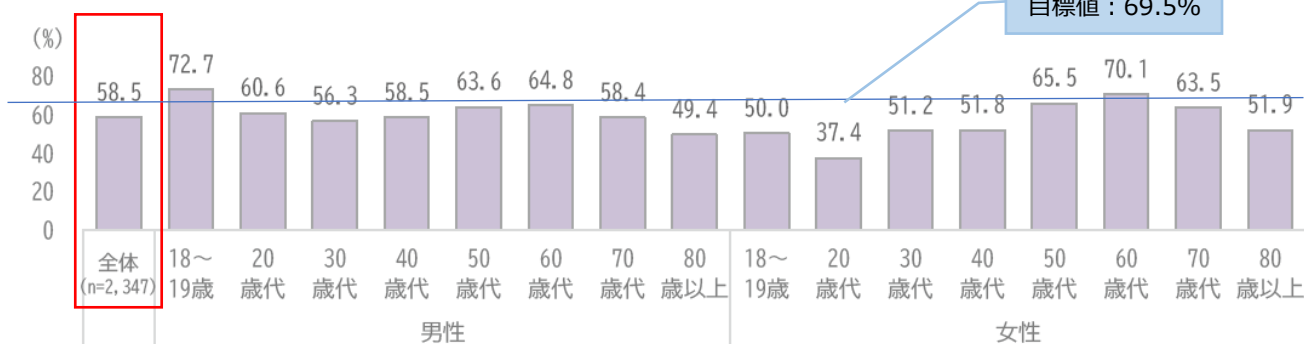
区民がスポーツをもっと好きになり、スポーツが生活の一部になる社会を目指すことで、区民のスポーツ実施率の向上、スポーツ人口の拡大を目指し、ひいては区民のウェルビーイングの実現、スポーツによる地域の活性化を目標のひとつとしています。また、数値的な指標としては、第 3 次実行計画において、スポーツ実施率 69.5%の実現を図ることを掲げています。

(1) 新宿区民のスポーツ実施率（新宿区スポーツ環境整備方針 p. 64）

【スポーツ実施率】週に 1 回以上、運動やスポーツをしている割合を算出。

【目標値】 令和 9 年度末までに 69.5%（新宿区第 3 次実行計画）

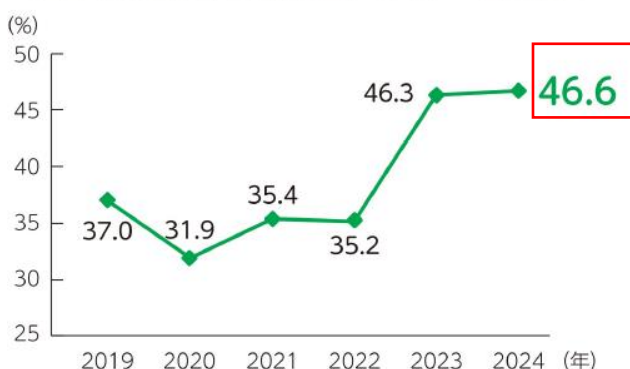
（令和 5 年度 新宿区スポーツ環境調査結果）



新宿区民のスポーツ実施率: 58.5% (R5 年度)

- ・20 歳代以上は、ほぼ全世代で目標値(69.5%)以下
- ・全体的な底上げが必要

障害のある人(18歳以上)のスポーツ実施率



※図表出典：「障害者のスポーツに関する意識調査報告書」(東京都)を基に作成

東京都の障害のある人のスポーツ実施率: 46.6%

- ・都民全体の実施率と比較し、とても低い状況。
- ・障害者のスポーツへの関心を高める取組が必要。

現在のスポーツ・運動への取組意向



※図表出典：「令和6年度障害者のスポーツに関する意識調査」(東京都)を基に作成
(「障害のある人の運動習慣定着に向けたハンドブック」抜粋)

(2) 新宿区スポーツ環境整備方針 基本的な視点

基本理念の実現に向け、以下の3つの視点を踏まえて、新宿区のスポーツ環境の充実を図っていきます。

①持続性・継続性

区民がスポーツを行う機会がイベントのような一過性のものに限定されることなく、日常的なものとなることが重要です。そのため、スポーツを気軽に行うことができる場や機会の拡充などにより、持続性・継続性のあるスポーツ活動を推進していきます。

②自主性・自立性

スポーツを行う主体は区民であり、区は、区民が自らの意志によって個々のニーズに合ったスポーツ活動が行えるよう、環境を整えることが必要です。

区民や地域・スポーツ団体等が、自主的かつ主体的な活動ができるよう、環境整備を進めていくことが重要です。

③連携・協働

区民や地域、スポーツ団体等の多様な主体が、連携・協働するための仕組みづくりを進めるとともに、各主体がそれぞれの活動を尊重し、互いに認め合うことによって、情報共有や人材の交流、イベントの共同開催等が活発に展開できるよう取り組む必要があります。

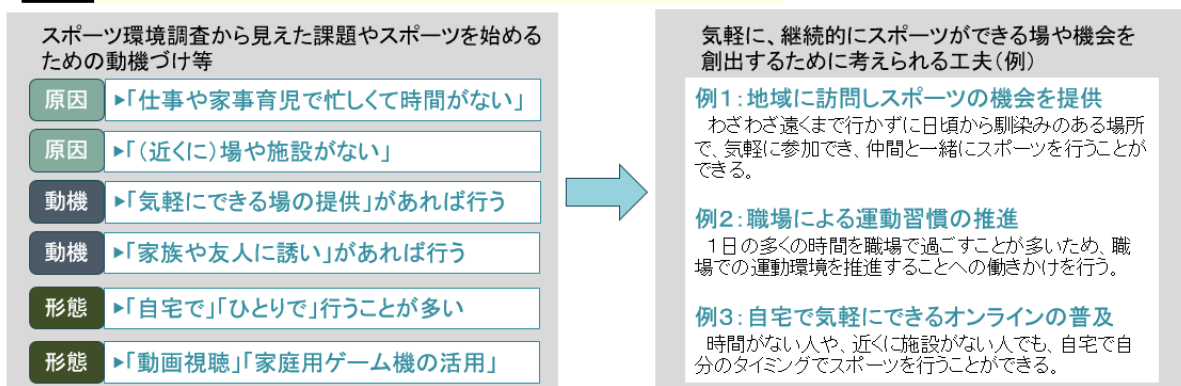
また、区の関連部署をはじめ、事業者や大学等と連携した環境整備をより一層推進していきます。

2. 前回会議での検討事項（振り返り）

区民が、スポーツを日常生活の中で、習慣化、継続化して取り入れていくためには、どのような工夫があればよいか、子ども・成人（働き世代・子育て世代）・高齢者・障害者を分類して検討。

基本施策1	誰もが気軽にスポーツを楽しむ機会の創出	▶	課題
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもがスポーツを楽しめる場や機会の創出 (2) 成人がスポーツを楽しめる場や機会の創出 (3) 高齢者がスポーツを楽しめる場や機会の創出 (4) スポーツの魅力を知る機会の創出 (5) スポーツに関する情報の充実 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ライフステージに応じたスポーツの場や機会の提供が必要 ■ 身近な場所で気軽に行える運動機会の提供、無関心層への関心喚起が必要 ■ スポーツ観戦を通じたスポーツへの関心喚起が必要 ■ スポーツに関する情報発信の工夫や充実が必要
基本施策2	障害者がスポーツに親しめる環境づくり	▶	課題
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 障害者がスポーツを楽しめる場や機会の創出 (2) パラスポーツの振興と理解促進 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害者がスポーツを楽しめる場や機会の創出が必要 ■ パラスポーツへの関心喚起、普及・啓発が必要 ■ パラスポーツを支える人材の育成と活用が必要 ■ 東京2020パラリンピックのレガシーの継承・発展が必要

発展 現状、スポーツができていない人への新たなアプローチを検討していく。



【議題】 子ども、成人、高齢者、障害者が、スポーツをしやすくなる環境や条件、工夫は??

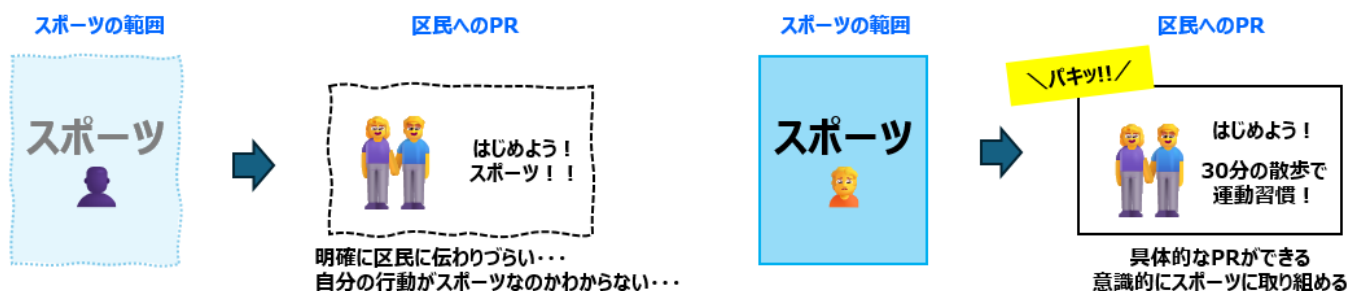
【前回会議であがった主な意見（抜粋）】

(1)「スポーツの範囲」に関するご意見

- ・ 仕事中に階段の上り下りをしてはいるが、どの程度の体への負荷があれば、スポーツしたと言えるのか、自分でスポーツの定義ができない。
- ・ eスポーツは、スポーツなのか？
- ・ 健康マージャンは、スポーツと言えるのか？
- ・ 自信をもってスポーツだと思ってもらえるように、情報提供をしていくのも良いかもしれない。
- ・ どこまでをスポーツと捉えるか検討し、区としてこんな運動をしていこうという提案の普及方法に、多くの資源を投資すべき。(スポーツ情報の環境整備)

💡 区民のスポーツ実施率を上げるためには、「スポーツ」に対する共通認識を持つことが必要。

- ① どこからどこまでを「スポーツ」として捉えることができるか(「スポーツの範囲」)を明確にし、
- ② 区民に向け分かりやすく伝えることで、
- ③ スポーツを身近なものとし、自発的なスポーツ習慣を促進していく取組が必要。
スポーツがやりたくてもできていない人や、無関心層へのアプローチの手法についても検討が必要。



(2)「スポーツの情報発信」に関するご意見

- ・ せっかく良い事業をしても、伝えたい人に情報が伝わっていない。
- ・ 情報過多で、どれが自分にとって必要な情報なのか見極める必要がある。
- ・ 取組にあたっては、区民の方に適切に伝える手段までパッケージで考えていくと良い。

💡 効果的な情報発信を検討するうえでは、単に「情報量」を増やすだけでなく、「誰に・何を・どう伝えるか」を明確にすることが重要。

➡ 今回の会議では、上記2点のテーマについて検討していきます。【資料2-2】